



# 桑の緑

小坂小学校 学校便り

令和3年11月4日  
文責：校長 江上 知男

## 御船中校区「学力向上」研究発表会が開催されました！



「体育館授業」の様子

10月28日(木)に、本校体育館で「学力向上」研究発表会が開催されました。御船中・御船小・高木小・小坂小が同時刻に授業を公開し、研究会を実施しました。小坂小会場は、体育館に教室を移し、他校から30名を超える参加者を迎えました。本校は、以前から紹介しているとおり教育課程特例校(英語教育)ですので、成果発表を兼ねて4年英語の授業を公開しました。

それにしても「本番に強い4年生」です。五反田、寺園、武末各先生と一緒に、いつもと変わらず活き活きと元気に学ぶ姿を見せてくれました。下は参加して下さった先生方の感想(抜粋)です。

- ◆日頃の英語によるコミュニケーションの積み重ねで、子どもが自信を持って会話していた。
- ◆word(言葉)を理解し、会話が成立し、子どもたちがしっかり楽しんでいた。
- ◆子どもたちの主体的で対話的な学びが、とても印象に残った。
- ◆アイコンタクトを意識して取り組む姿を見て、コミュニケーション力の高さをうかがえた。

そのほか、「指導する先生方のコンビネーションがとても良かった」「先生方の温かい雰囲気がとても素敵だった」等々のうれしい言葉もいただきました。研究発表会は大きな成果があったと思います。今後とも、「子どもたちが苦手意識を持たない英語」を強く意識して、取組を重ねていきます。

最後になりましたが、急遽体育館で授業をすることになったため、地域の社会体育クラブには数日間体育館使用を学校に譲っていただきました。おかげさまで発表会が実施できました。感謝いたします。

**「真の国際人」の条件とは？** 野茂英雄(のもひでお)という野球選手(ピッチャー)をご存知ですか。野茂さんは、アメリカのメジャーリーグで活躍したイチロー選手、松井選手や、現在大活躍している大谷選手などの「道を切り拓いた選手」と言えると思います。

野茂選手が、アメリカに渡ったのは今から25年前です。当時、日本のマスコミは「日本人がメジャーで成功するのは無理だ」という論調がほとんどだったことを覚えています。しかし、野茂さんは失敗を恐れず挑戦し続け、結果的に数々の記録を打ち立て、アメリカ人の記憶にも残る選手となりました。日本のマスコミも、野茂さんの勇気や功績を大きく讃えるようになりました。

アメリカに渡る前の野茂さんに、ある記者が「英語が話せなくて、アメリカの生活に心配はありませんか？」と聞いたそうです。すると、野茂さんは「私は、英語を話しに行くのではなく野球をするために行くのです」と答えた逸話が残っています。野茂さんの覚悟が感じられます。

同時に、ますますグローバル化していく国際社会では「英語力が必要である」と言われていますが、野茂さんのコメントから「国際人=英語が話せる人」という理解は、短絡的だと気づかされます。英語は、日本人以外の人と意思を疎通するツール(手段)に過ぎません。「英語で伝える力」は重要ですが、「何を伝え合うのか」はもっと重要です。子どもたちには、真の国際人になるために、「伝える中身を充実させるために学び続ける人」であって欲しいと思っています。